

様式第4のハ（第4条、第5条関係）

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		油槽所			
貯蔵する危険物の概要		引火点	-40℃	貯蔵温度	常温℃
基礎、据付方法の概要		20m PC 杭6本打設し、その上に1.5mの鉄筋コンクリート造の基礎を設ける。タンク下部は、アスファルトモルタルを敷設する			
タンクの構造、設備	形状	縦置円筒型		常圧・加圧(kPa)	
	寸法	高さ	5,000mm	容量	80kl
	材質、板厚	底板 9.0mm、側板 6.0mm~4.5mm、屋根板 4.5mm、アニュラ板 9.0mm、全てSS400			
	通気管	種別	数	内径又は作動圧	
		無弁通気管	1	100mm kPa	
	安全装置	種別	数	作動圧	
		なし		kPa	
液量表示装置	フロート式	引火防止装置	有・無		
不活性気体の封入設備	なし	タンク保温材の概要	なし		
注入口の位置		防油堤の南側	注入口付近の接地電極	有・無	
防油堤	構造		容量	排水設備	
	鉄筋コンクリート造 (高さ1000mm 厚さ150mm)		100kl	防油堤内に集水ますを儲け防油堤外に弁を設ける	
ポンプ設備の概要		ギャーポンプ2基、モーター2.2kW2基			
避雷設備		JISA4201による突針1本			
配管		鋼管(STPG)			
消火設備		第3種泡消火設備	タンクの加熱設備	なし	
工事請負者住所氏名		〇〇市〇〇町〇丁〇番 ××設備(株) 消防 太郎 電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇			

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

様式第4のハ（第4条、第5条関係）

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書
（20号タンク）

事業の概要		_____			
貯蔵する危険物の概要		引火点	35℃	貯蔵温度	常温 ℃
基礎、据付方法の概要		鉄筋コンクリート基礎にタンクを据え付け、アカーボルト4にて固定する。			
タンクの構造、設備	形状	縦置円筒型		常圧・加圧(kPa)	
	寸法	高さ 1,700mm 内径 2,200mm		容量 4,500ℓ	
	材質、板厚	材質 SUS304 板厚 底板5.0mm 側板4.0mm 屋根板 4.0mm			
	通気管	種別	数	内径又は作動圧	
		無弁通気管	1	54.1mm kPa	
	安全装置	種別	数	作動圧	
		_____	_____	_____ kPa	
	液量表示装置	差圧液面計	引火防止装置	有・無	
不活性気体の封入設備	窒素封入装置	タンク保温材の概要	_____		
注入口の位置	_____	注入口付近の接地電極	有・無		
防油堤	構造		容量	排水設備	
	鉄筋コンクリート造 3.0m×3.0m×H0.5m		2.25Kℓ	堤内に集水柵を設け弁にて排出する	
ポンプ設備の概要		_____			
避雷設備		_____			
配管		_____			
消火設備		_____	タンクの加熱設備	_____	
工事請負者住所氏名		_____ 電話			

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

屋外タンク貯蔵所（屋外の20号タンクを含む）の構造設備明細書記載事項

- ① 「事業の概要」の欄は、屋外タンク貯蔵所を使用して行う事業の内容について具体的に記入すること。
- ② 「貯蔵する危険物の概要」の欄中、「引火点」の欄は、中仕切りタンクの場合、最も低い引火点を記入し、「貯蔵温度」欄は、加熱設備等常温以外の状態で貯蔵する場合に記入すること。
- ③ 「基礎、据付方法の概要」の欄は、例えば「 O m P C 杭を OO 本を打設し、その上に厚さ O.O m の鉄筋コンクリート基礎を設ける。タンク下部は、アスファルトモルタルを敷設する。」等と記入すること。
- ④ 「形状」の欄は、形状及び屋根形状を「縦置円筒型（コーンルーフ）」「横置円筒型（中仕切り）」等と記入すること。
- ⑤ 「常圧・加圧の別」の欄は、該当するものに O をつけ、「加圧」の場合は、その圧力を記入すること。
- ⑥ 「寸法」の欄は、内径、高さ、側板高さ、胴長、鏡出等を記入すること。
- ⑦ 「容量」の欄は、「内容積 OOO リットル、空間容積 OOO リットル（ $\text{O.O}\%$ ）、容量 OOO リットル」と記入すること。
- ⑧ 「材質、板厚」の欄は、縦置円筒型の場合、「底板 OO mm S S 4 0 0 、側板最下段 OO mm S S 4 0 0 、2段 OO mm S S 4 0 0 、最上段 OO mm S S 4 0 0 、屋根板 OO mm S S 4 0 0 等」と記入し、横置円筒型の場合は、胴板、鏡出について、角形の場合は、側板、底板、屋根板について材質、板厚を記入すること。
- ⑨ 「通気管」の欄中、「種別」は無弁通気管又は大気弁付通気管の別、「数」はタンクに設けられる数、「内径又は作動圧」は無弁通気管にあつては内径、大気弁付通気管にあつては内径及び作動圧をそれぞれ記入すること。
- ⑩ 「安全装置」の欄は、圧力タンクに該当するタンクについて記入するものとし、「種別」は危険物の規制に関する規則第19条第1項各号に掲げる種別、「作動圧」は「 OO kPa 」等と記入すること。
- ⑪ 「液量表示装置」の欄は、例えば「浮子方式による液面指示計」等と記入すること。
- ⑫ 「引火防止装置」の欄は、「有」・「無」のいずれかに O をつけること。
- ⑬ 「不活性気体の封入設備」の欄は、設備等の概要を記入すること。
(例) 窒素ガスシール、増減圧時の警報設備を設置
- ⑭ 「タンク保温材の概要」の欄は、タンク外面に保温材が使用されている場合に、その材質、固定方法等を記入すること。
- ⑮ 「注入口の位置」の欄は、注入口の設置場所を記入すること。
(例) No. O タンクの南西側 OO m に注入口（注入口数 O 口）を設置
- ⑯ 「注入口付近の設置電極」の欄は「有」・「無」のいずれかに O をつけること。
- ⑰ 「防油堤」の欄中、「構造」は、例えば「鉄筋コンクリート造（高さ OO mm 、厚さ OO mm ）」等と、「容量」は「 OOO リットル」と、「排水設備」は、例えば「集水桝 O 基を防油堤内に設け、これより金属管により排水。堤外吐出口付近にしゃ断弁を設置」等とそれぞれ記入すること。
- ⑱ 「ポンプ設備の概要」の欄は、ポンプ種類、基数、防爆構造、ポンプ室の場合は建物構造等を記入すること。
(例) ギャーポンプ O 基、モーター O kW O 基（受入）モーター O kW O 基（払出）
- ⑲ 「避雷設備」の欄は、JISA4201によるとともに、その概要を記入すること。

- ⑳ 「配管」の欄は、材質、口径、接続方法、防錆・防食方法を記入すること。
- ㉑ 「消火設備」の欄は、該当設備を記入すること。
- ㉒ 「タンクの加熱設備」の欄は、タンクに設置する加熱設備の概要及び加熱媒体を、例えば、「SGP 40Aスチームコイル」等と記入すること。
- ㉓ 「工事請負者住所氏名」の欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入すること。